

台風15号・19号の被災者補償、避難所対策を要求!



台風19号による土砂災害の現地調査を行う市議団(2019/10/13相原町)



台風15号では、強風により屋根がめくれたなどの被害が多数発生しました。

また台風第19号では大量の雨により、18箇所です砂崩れや道路陥没など被害が発生。日本共産党市議団は、池川友一都議とともに、翌10月13日、土砂崩れ現場を3ヶ所視察しました。(写真)

細野りゅう子市議は、一般質問で台風で損壊した住宅の補償と、崩れた斜面の擁壁の整備を求めました。災害による住宅損壊の補償はできないとの答弁でしたが、その後東京都が台風第15号・第19号に限定して予算化した住宅の一部損壊への補助制度を適用することになりました。

資産税課で罹災証明をとられた世帯60軒が対象となります(罹災証明の申請は今後も可能)。屋根や外壁など居住するうえで

住宅の一部損壊への補助が新設

2019年第4回定例市議会が、11月29日から12月23日の日程で開かれ、補正予算や受益者負担の適正化による公共施設使用料の値上げなどの議案と市民から提出された請願審査が行われました。共産党市議団は、市民の声を一般質問で取り上げ要求実現に奮闘するとともに、災害時の避難施設にもなる小・中学校体育館への空調設備設置工事費や、学童保育クラブの高学年児童受入れ開始のための設計予算の盛り込まれた補正予算に賛成し、全会一致で可決されました。

小・中学校体育館への空調設備が予算化

2019年
第4回定例会

必要な施設の改修の費用の2分の1、上限30万円が補助されることとなります。対象者には町田市から通知が届きます。



全戸に配布された新しい洪水ハザードマップ(2019/11発行)

風水害時はどこの避難所がいいの？

台風第19号では、学校や市民センターなど34か所の避難施設が開設されました。佐々木とも子市議は、一般質問で党市議団が実施した「台風15号・19号に関するアンケート」に寄せられた「地震災害とは避難施設が違うことを知らず右往左往した」「避難所がいっぱいで入り切れず他の施設へ回された」などの声をもとに、都立町田の丘学園や私立学校にも協力要請す

新しい「洪水ハザードマップ」をもとに地域ごとの住民説明会を

町田市は新しい洪水ハザードマップを全世帯に配布しています。そのハザードマップを活用した地域ごとの住民説明会を求めたところ、20人以上で申し込めば「しっかりと対応していく」との答弁がありました。日本共産党は、今後も台風災害の対策強化と被災者支援の充実に全力をあげます。



るよう求めました。また、備蓄品の数や人員体制についても改善が必要であり検討していくと防災安全部長が答えました。さらに、避難施設の実環境改善では、党市議団が求めてきた小・中学校体育館への空調設備設置予算が盛り込まれました。

体育館空調設備設置事業 (2020年9月末まで)

小学校 7校	医療拠点3校:成瀬台小・大蔵小・相原小 救護連絡所4校:町二小・南大谷小・小川小・忠三小
中学校 18校	全20校のうち、改築工事中の町田第一中、中規模改修を行う成瀬台中を除く18校

※残りの37校については、2021年度中に空調設備を設置